

JCTIC (マレーシア:コタキナバル)

滞在期間: 2012年3月28日~6月21日 (86日間)

板垣治敏 (埼玉県春日部市)

1. JCTICについて

北ボルネオに位置するサバ州の州都コタキナバル市にある私立の日本語学校。主に大学生や社会人対象の初級・中級夜間クラスの学校です。3~4名の日本人教師による、1クラス5~6名の少人数クラスで学生一人一人に目が届く教育が行われています。

日本語関連の書籍やテキスト、問題集、CDなどのライブラリーのほか、PCやWi-Fi接続によるインターネットも利用できるなど大変便利な環境がそろっています。

教育方針として、楽しく無理なく日本語が学べるよう配慮されているようです。学生達も明るく陽気で教師の立場からも大変授業のしやすい雰囲気为学校だと感じました。

2. 住居・生活について

市の中心部にある「マリナーコート・リゾート・コンドミニウム」は3ベッドルーム付きのリビング・ダイニング・キッチンで、11階建ての10階にある(家具付きの)広く快適な住環境です。晴れた日には約90キロ離れた世界遺産にもなっているキナバル山(標高4095m)の勇姿がベランダから見えます。

徒歩15分圏内に3つ以上のショッピングセンターやスーパーマーケットがあり、生活用品や自炊用の食材・生鮮食品も安価に手に入る非常に恵まれた住環境です。

学校も大変近く、ゆっくり歩いても10分とかならない距離です。授業が終わってからの夜道も市街地なので治安面の心配は全くありませんでした。ただ、どちらかという車優先の社会なので、道路を渡るときは気をつける必要があります。

軽食カフェや庶民的レストランも多く、世界中のおいしい料理がたくさん楽しめました。

3. 観光・レジャーについて

まずは、日帰りバス旅行でキナバル山を見にキナバル国立公園に行きました。日本語ガイド付きのツアーもありますが、英語ガイドツアーに参加しました。フランス、チェコ、オーストラリア、中国など世界各地からの観光客と一緒に国際交流にもなりました。島巡りでは熱帯魚が間近に見られるシュノーケリングも面

白かったです。川船で行くリバークルーズ、ワニや水牛を見ながらテングザルやカニ食いザルの生態を観察、夜のホタル見物も良い経験になりました。近くに州立博物館や美しいイスラム寺院などもあり、休日や平日の観光プランには事欠きませんでした。魚市場や民芸品のクラフトショップを見て回ったり、サンデーマーケットで珍しい工芸品を手にとってみたり、とにかく退屈しない日々でした。

4. 授業について

滞在中、平日はほぼ毎日90分授業(夜間)を1回ずつ担当しました。学校の種々の事情もありコースの途中で担当が変更になったり、学生の都合でコースが中止になったりもしましたが、それはそれで変化があってよかったかなと思っています。

クラスのレベルは「あいうえお」から始まる「ゼロ初級」から中級の後半レベルまでありましたが、どの学生も勉強熱心で、日本の歌やアニメ、コミック、観光・風物などにも関心が高く授業中もよく話題になりました。言葉だけでなく日本の文化、日本人の心を伝えることも大切なことなのだと改めて感じました。

国内の日本語学校ではおおむね日本語で教えることが前提となっていますが、今回は学生が英語で質問し教師も英語で応えることが多く、クラス運営や語彙意味・文法の説明なども英語を使う授業スタイルが経験できました。

4. 最後に

滞在中、幸運にもサバ校の日本語文化祭に同席させていただく機会がありました。校長先生、副校長先生、ノリザン先生にごあいさつでき、また12歳~16歳の生徒達とも親しく言葉を交わすことができ本当に有意義でした。

また、このたびはWSCの青島さん、JCTICの岡村先生、それにコンドミニウムオーナーの氏原さんご夫妻には何かと大変お世話になりました。誌面をおかりし、ここに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



最後の授業が終わって
(初級クラス)

滞在期間：2012年6月20日～8月31日（73日間）

高橋信夫（東京都武蔵野市）

同ボランティア活動に参加した理由・感想

定年まであと1年となった3年前から地元、武蔵野市の公益法人で日本語交流員として外国人と交流するボランティア活動を始め、定年後も続けたいと考えていた。一方、海外でのロングステイにも大いに興味があり、インターネットで検索していたところ、WSCのこの活動の記事が目にとまった。コタキナバルもロングステイの候補地であったので、「コタキナバルで日本語教師とロングステイの両方が同時にできる。これだ!」と思い、早速、WSCに連絡、青島様から直接お話を伺い参加を決意した。コタキナバルでの生活は下記の通り、期待していた以上に楽しくかつ充実した10週間であり、この活動に参加させていただいたことを心より感謝している。

楽しくやりがいのある日本語教師活動

JCTICは小さい私立の日本語学校であるが、国際交流基金の日本語スピーチコンテスト・マレーシア大会で昨年、今年と連続で優勝者、準優勝者を出すなど、過去から優秀な成績を残していることに驚いた。WSCの諸先輩方の努力の結晶であると思う。

海外での日本語教師ボランティアは初めてなので、担当は月・水・金の週3回だけにしていただいた。生徒は18歳の学生から31歳の会社員までの7人、皆素直で熱心であり、やりやすかった。日本で日本語教師のボランティア活動をする場合は、学習者の母語が多岐にわたり、できる限り日本語のみで教える直接法で教える場合が多いが、マレーシアの学習者はレベルの差はあるものの、英語を話せるので、日本語の文法もJCTICにある英文解説書を使い効率的に説明できた。

さまざまな方々との貴重な交流

宿舎であるマリーナコートのオーナーである氏原やすたか様は建築会社の社員として世界各地で仕事をし「知られざる素顔のパキスタン—日本人ビジネスマン奮闘記」(日本文芸アカデミー大賞受賞作・共栄書房)を著わすほどの国際人である。2001年に早期退職の後、コタキナバルに在住、ボランティア活動で囲碁クラブとギタークラブを開催し、生徒達に指導、休日には教会のコートでバスケットボールのコーチとして青年に指導している。またクリスチャンである奥様、ティナ様も、教会で多くのボランティア活動に取り組んでいる。その活動の一つとして、教会員の有志とマレーシアのストリートチルドレンを救うため、1歳になるお

嬢様を含めた家族ぐるみでCFFマレーシア・子供の家で活動をしている阿部様ご夫妻を訪問した際、同行させていただいた。阿部様ご家族のボランティア活動には感動し、頭が下がる思いがした。またマリーナコートで同宿となった尾崎様、永吉様、荒井様からもいろいろなお話を伺った。皆様からこれからの人生をより充実させるためのヒントを数多くいただいた。

趣味を思う存分楽しめるコタキナバル

氏原様のご友人である和泉様からお誘いを受け、主として毎週土曜日の夕刻に、日本人テニスサークルの皆様、十数名（和泉様と梅原様はJCTICでの教師経験あり）とプレーを楽しみながら、交流を深めることができた。適度な運動は健康維持に欠かせないので非常にうれしかった。

また、そのテニスで知り合った岩崎様からはゴルフのお誘いも受け、岩崎様がメンバーである名門サバ・ゴルフ・アンド・カントリークラブでプレーをさせていただいた。岩崎様ご夫妻は退職後、退職者ビザを取得しコタキナバルでのロングステイを開始してから3年目。お二人の充実したロングステイライフの様子はお二人のブログ「バグース夫妻」(バグースとはマレー語でGood)で詳しく、また楽しく記載されている。

また、若いころから水彩画に興味があったが、絵筆を持つ時間、精神的ゆとりがなかった。しかし、ここでは描きたくなる風景が多く、時間もたっぷりあるので、気が向けば描くこととした。うまく描けた絵は1枚もないが、日本では味わえない贅沢な時間を満喫できた。

多民族が平和に暮らすマレーシア、語学の実地練習にも最適?

マレーシアの国教はイスラム教であるが、キリスト教、ヒンズー教の信者も非常に多い。本音の部分はいかがい知るところではないが、宗教の違いを乗り越え、平和に暮らしている。争いの絶えない世界に平和をもたらすために何らかのヒントがあるのではないかという気がする。また、さまざまな民族が住んでいるのでマレー語、英語、中国語等の言語が飛び交っている。小生のつたない英語でも、全く気にならない気楽さがある。レストランで覚えたての片言のマレー語や、過去に少し勉強した中国語で注文したりして実地訓練に励んだ。(マレー語や中国語のレッスンつきでおいしい料理が200円～500円程度で食べられるのは安い!)